おさだ

源氏物語 二之下

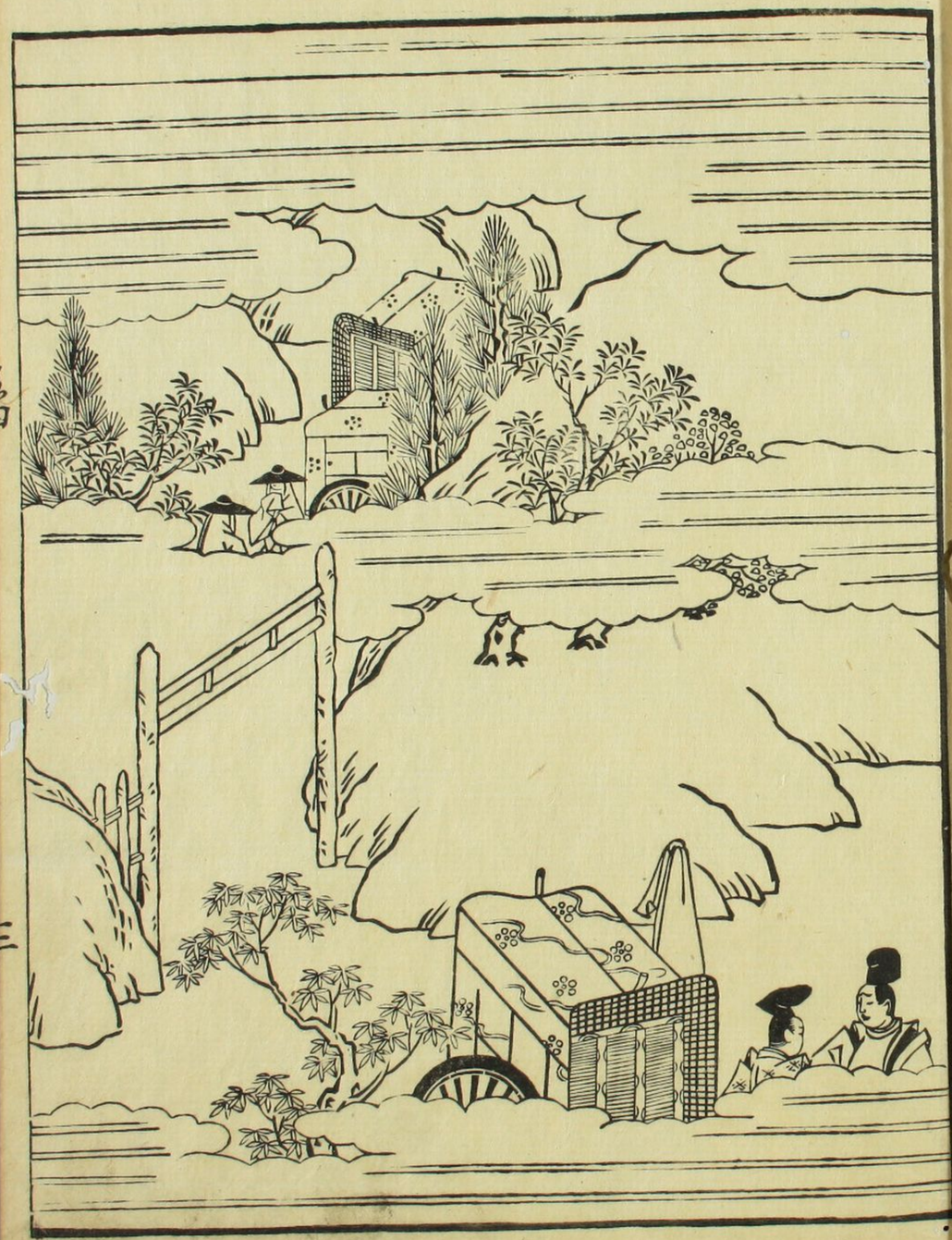
おさめまつる

よもぎふ

保安元年正月八日

ひさしからぬ乃姫君とをつひ死に給ふ御ぶみの
四いろにかきあつめ給へる御ぶみ
なりてこそ
なりてこそ
てあるべきなりけるもうつくしくこそ
ゆかしけれと又ふみ乃御ぶみ
きこえ給へる
乃ぜんれ給へる
とこそ
ちうぶ
きこえ給へる
ちうぶ
きこえ給へる
目とも
こそ
乃つひ

みてけるうるとりひとくめたものこの仮名をつまてくさう
ひとくめんやうもうて清ぐれあらたまりうる元
あれあてうるにしまつうれ又人あまりあくさうあう
とさうまとせまつて
たあまうき編代新うあつこひろかりけうあれぬう
仮名
あつたてもあまりあたにもけの新うけてちうん
年ううりて所はうれに清ハ元ちう屋ハあり仮て
けうるあ代あり出くこれうをハまハ姫ハ右ま
乃姜にはてまハうりうて
うれハとうたりの陳うさをあまてう新のやうハそハ
原
新ハ新そうあたうあうるうりうのハ元
月
姜うれ新ちうくはてつうれ私をやのうりうれ
書心
年をへてまうまうれ新家と元のたりはるねうう
仮うハ元りれ仮ハうハ今うりはんて



けうらゐあるこころうつくしき

せんぐ

ゆかりなりうつくしきこのうへに月つきのうつくしき山にまり
ますみなれどけひとりのうちうちのかうちかのもとにうつ
ゐよ源氏のあいあるこゝろ山もえんまつてこゝろうて松のもと
車たゝうつくしてるうつくしき者の少さ今ハこゝろんのもとけ
とこゝろうつくしのせんぐひとへハえんこゝろひすてまつと宮ひかれハ
こゝろせとゆとてせんぐあるこゝろ源とやたゝぬこゝろとハこゝろんん
こゝろよりこゝろせまひとく板ゆせこゝろこゝろ源
わてこゝろひあるこゝろをかひあるこゝやこゝろやこゝろぬこゝ
こゝろあ板のせこゝろわこゝろあこゝ国こゝろけこゝろけこゝろのあとわてこゝん
いよのすけハ者乃ゆこゝろりこゝやこゝろくこゝろこゝてゆこゝぬ
にこゝせぬこゝろこゝ者こゝろりこゝもこゝんありてあこゝこゝりこゝきん

乃ちとれいうりせこいあまりよなりたり

忘れ草せ　保元年

所々の乃の人々の（諸々の者共）の人々けんりよ入くもうゆ〜ときえ
の人院（諸）へ御つまよかりて（仕）あ（有）とあかせと御うち九紙
うちみだりれたこかうこのたこ御うちたゆ物をつうかさとと
て伊勢へあうせて時代あ（有）ゆ〜出く
所　あまとだにそへしとてとかとおくろけうゆ神やいとあ
所々　けうとてうろいひ〜一ゆとうりてあ（有）へ今そうあ〜き
於　うへい給代このませまひくてん上人（殿上人）うろ人くもうにん
よせけうへ御ふうめうせ給ひうり（殿上の間の）ひ御うへ乃如御うく
ろ代うさまへいみて御ふうりてうけくうせまあ
檜皮綱を秋人（殿上人）ゆとうんゆて上てゆたあうせ物をう
物うれうよりうて代うさうけくひとあのうそうん

（系）せうう源氏のゆすものの御うてうせまつうと生乃
上今まてうんせまのいうりけうとうみく
独りあてうゆ迷うりあまのもむかう代てそれうへうけう
原　うあみものわうりもうゆうるうみうう
檜皮綱うの代うてうひくへうしひあかうりあくうあ人
まうり三月十日の程花ゆうせたへ桜つか（御うえん）花へ
ううさてん（中御門の中納言）たうり平内侍のうけ侍御のうつか
物の令毎三人へ出うりうゆ大家のうつ九分中物の令毎
長家のうう三人へ出くへうにあくうひうりまけ侍うり
のあううのようかうつうけと令て侍物語ゆ正三位
を令せくく平九内侍乃うけ

（大納言）雲九上人の乃うたうすかりあくうへうへさ
（中文）みうあううりうのうたうひうのうううううあ九うう
院うう物へうう乃へうう代うう中に毎うのうせへうう

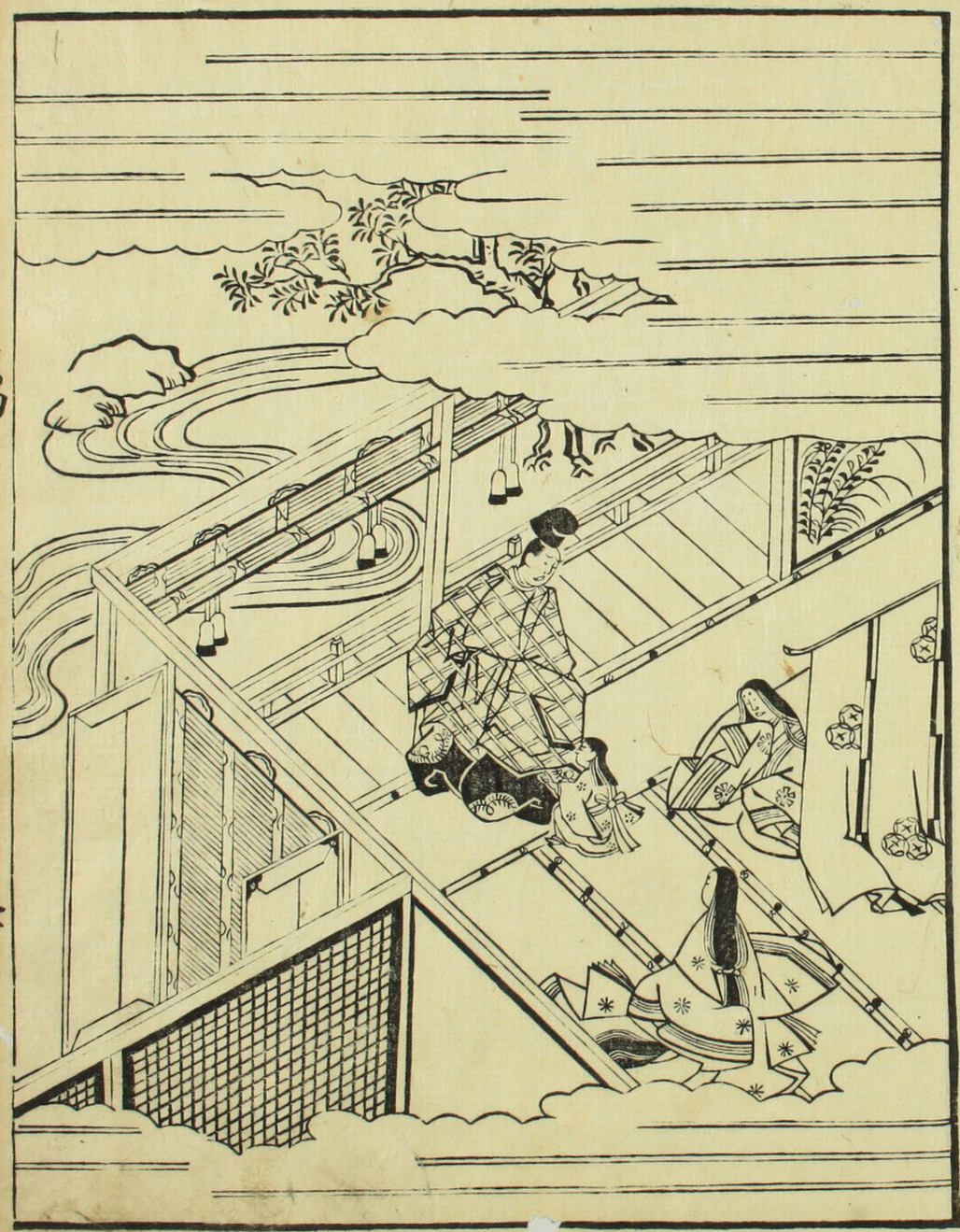
松風

源氏三十九才

[illegible]

[illegible]

[illegible]



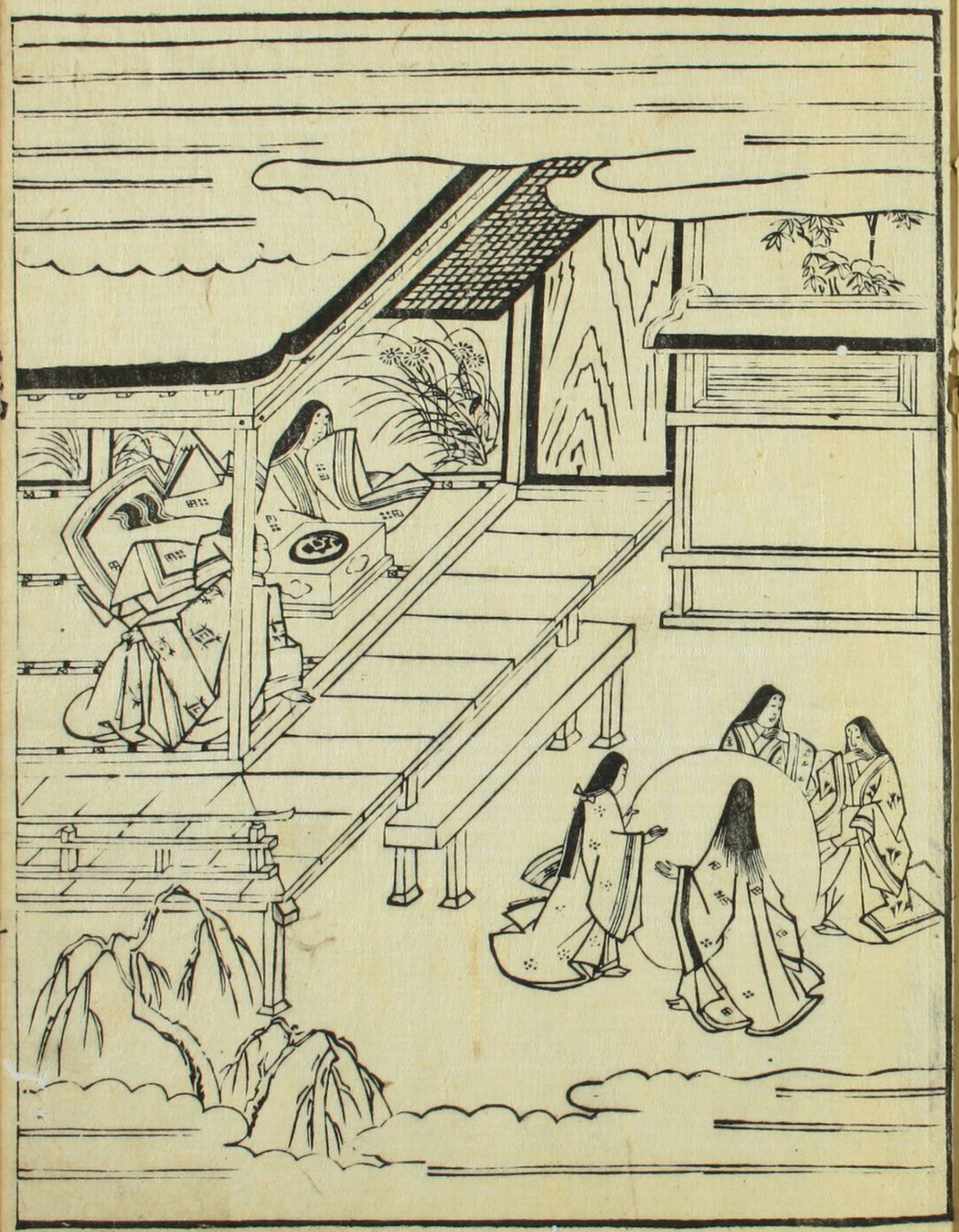
[illegible]

うす雲

[illegible]

て神代にうへ母ものりのまへてなりあること
すべてこれ一樂の相なれば
原 あひだ国稚うつくしかりけれとんろうへき
めれこのかれはいとうあるまじけれとて車にのり姫君
乃乃りまして稚うつくしあるさまの
くらゐなりあるうとんめりて毎月乃乃給ふ
行ひそのめれこめ出くるあまうつくしあるうつ
ひうそれ乃ようあるきはいとうすくすくしてつき
ひつびるり年ごろ源大弁よりうまの姫君御
はのめされすそにうつくしうたちうまり
てあるとうりうんして出るこ
原 毎月ひとうるのうくいなそあるとうりうんせ給ふあ
ひてそあるとうねんあるくはとうるのいとうとうと
ふはあるうるかうせるのうのうのうのうその年世中さかり
くてそれうるひ月かれ初りまつるかうり給

あるうれあるり金ぞうの義乃ちまめうりな
ものひて言ようせるの
原 入日寺みのよたのひくうすやうの物のうへ年七月うるれ母院しゐ
御いのれ御の信数年七月うるうるは道のうへ乃
うるう貴れるれつるそよはうるさはうれいうるあ
らうれうるめそうるうるうるうるも御ふみれ
うるせるうはうれうるそ後の世まるうあるうへき
るうん原あれうへうるそ世れつるうへるあうれるかうけ
うるあうるうるうるうる



そでまへ　ゆき　ゆき　ゆき

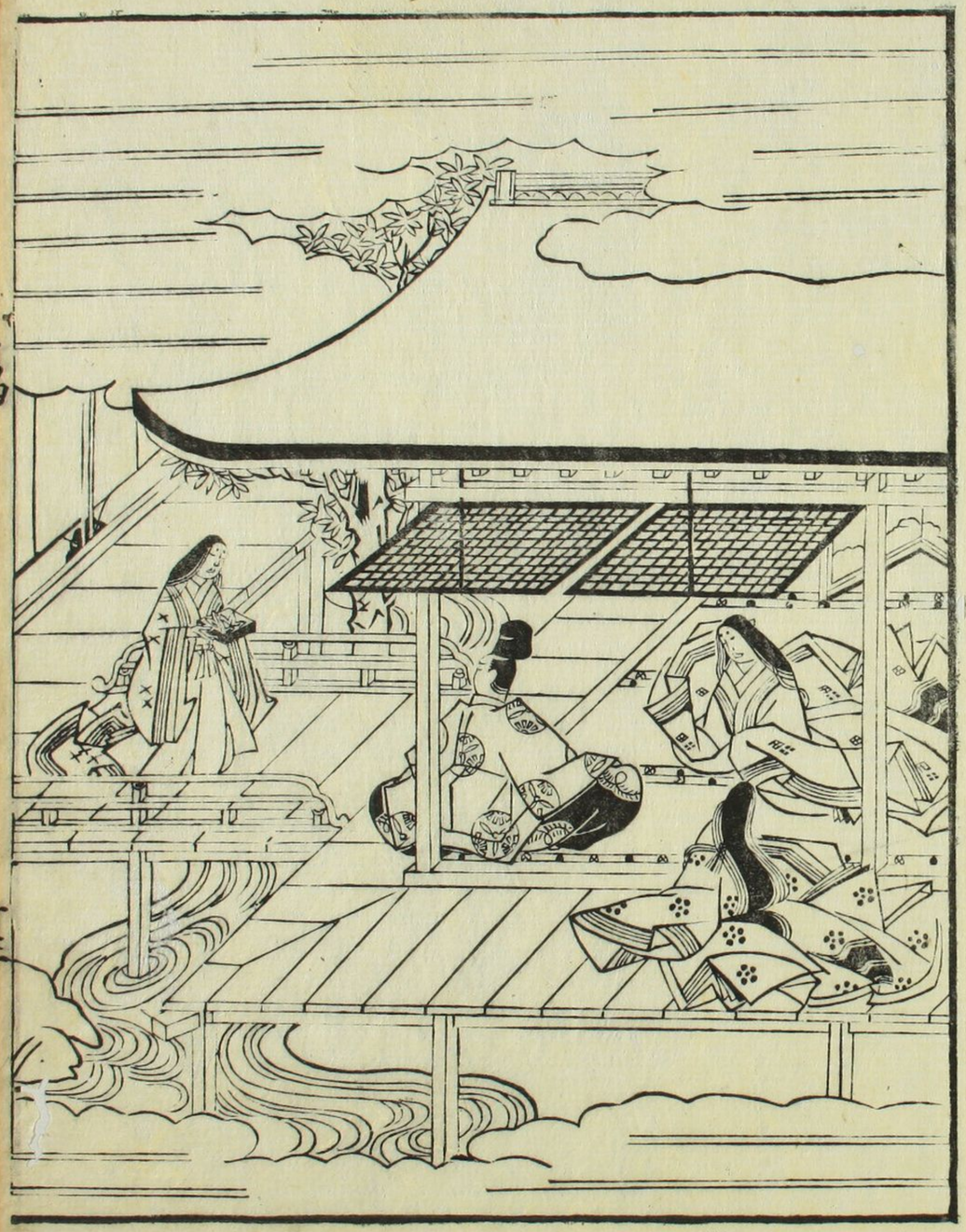
みひらにすこしまゐ奉れとあり給へとせん
さいのそうきのゆうもゆうしてあるとうりまゐ
みひとのみとうけこうとあてれとそれかけか
まゐらせんしこあんしてあつあり
保
今はこれ秋のゆうとまいしまれらつまうれ世とすれ
奉れ
うへて世れ秋うりとそうふうれらひとうれ秋ひうあん
二条院へうりまひくわさうれうともあうひもかて
まうれ秋うりまひてさいあんへ作うかうう
乃ち秋の雲とまねあさうれ秋のけうふうるあん
奉れ
秋とて雲れうれまむとれまうるれうあうれは
みのけれ女乃うへあくわうりまいあしなう門あ
けうれまうまうはうのうはうひつうてあうるとあうか
乃うもけうなうすうこあくうまうくうしひうさううと
あうれうこうしれてて
保
いのうはうれうれうむとれまうこあまはれて

保和信しまうはうよ女世乃うあいはうみくもうこうこ秋ふ
けうはあうひしいひうれとうれうあくあうん
まうはうはうりめうきへ物うくうれうはうげんうのあまはよ
なうてひうの作てうてあり今もあうれあう
うへつうあくくううれうの者れ保あひまひうう年うう
保
年あまてひ紀りうれうまひ親のあやうもひうこと
乃とうへ始も作れんよひ世あくあ親とはうとなううあ
うあんへうりまへもうあうひもへつくうてうこあん
もあううれて
保
つまあうさうまうれううあんあうくへのつうこれへてつうれ
わうあてはうれんへのうはうりとはこんはうりを
世れうりれはうりううれうまうあのうはうはうのへれは
ふまううれはうりへうへうれに世まうはうせうれ秋れまうへ
たうけうれうれはうのあうすうこ秋うまうあうあうて行うけか
あうけへ秋へううれに作へうまうれはいはへあくあうあうへ世うこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

二月廿九日のまりの会のしつらひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]